

<p>13:00</p> <p>15:30</p> <p>15:50</p>	<p>ンバーガーに豪快にかぶりついた。ホクホクのポテトも相まって、まさに「アメリカのジャンクフード」という満足感があった。店員さんも気さくで、楽しい食事になった。</p> <p>続いて向かったのは国立自然史博物館。館内はとにかく広く、展示の種類も多い。生き物の展示だけでなく、輝く宝石のコレクションもあり、どれも見応えがあった。気づけば2時間半があっという間に過ぎていた。</p> <p>その後、記念塔の前を通りかかった。アメリカに来てから一番近くで見ることができ、写真を撮ろうとすると塔の上部が画面に収まらないほどの高さだった。</p> <p>集合場所まで時間があつたため歩いて向かうことになり、結果としてこの日の歩数は2万歩を超えた。途中にはジェファーソン記念堂も見え、思いがけず観光が増えた形になった。</p> <p>最終目的地の Pentagon City Mall には、ちょうど良い時間に着いたと思ったが、実は3班が最後の到着だったようだ。非常に濃密なワシントン観光となった。</p>	   
<p>4班 8:30</p>	<p>ホテルを出発し、地下鉄で L'Enfant Plaza へ向かった。こちらの地下鉄は車両が五角形のような独特の形をしていて、加速度も大</p>	

きく、日本の電車とはかなり感覚が違う。国際スパイミュージアムの入場時間まで少し余裕があったので、周辺を歩きながら本場のスターバックスに立ち寄った。アメリカでは最小サイズがTallで、注文するとカップに名前を書いてくれるのだが、日本人の名前はなかなか聞き取ってもらえない。スペルを伝えると「ああ、そういうことね！」と明るく笑ってくれ、その雰囲気がいかにアメリカらしいと感じた。なお、スパイ博物館には飲み物を持ち込めないため、入口の前で急いで飲み干すことになった。



10:00

国際スパイミュージアムに入館すると、セキュリティチェックでバッグを開けられているメンバーがいて、少し緊張した。展示の説明をじっくり読みながら進んでいたら、ミッションの10%を終えるだけで30分もかかってしまい、途中からペースを上げることにした。一人ひとり違うミッションが割り当てられる仕組みは面白く、入館料の高さにも納得できた。最後には、自分に合った“おすすめの変装”まで教えてくれるのがユニークだった。



12:00

博物館を出て、徒歩で Potbelly というサンドウィッチ店へ。アボカド入り、キノコ入り、ベーコン入りなど、ざっと20種類ほどのメニューがあり、選ぶだけでも楽しかった。店員さんが丁寧に注文を確認してくれたのもありがたかった。近くの売店ではホームレスにお金を求められたメンバーもいたが、特に問題なく済んだようだ。



14:00

昼食後は再び歩いて 自然史博物館 へ向かった。道中ではサクサモクレンがちょうど見頃で、白と薄紫の花が風に揺れていた。館内は団体客でにぎわっており、人類の進化や宝石の展示、哺乳類の模型などを見て回った。スパイ博物館からの移動も含めてかなり歩いていたため、途中でベンチに座って休憩することにした。外に出ると、鳩の体つきが日本よりずっと大きくて驚いた。日差しは暖かいのに、風だけはずっと冷たかった。



15:30

予定より少し早めに Pentagon City Mall へ向かうことにした。地下鉄に乗ると、車両同士を行き来できない構造になっていることに気づき、またひとつ日本との違いを感じた。モールに到着すると、服屋が多く、見て回るだけでも時間が過ぎていった。女子メンバーはシナモンシュガー味のプレッツェルを買い、店員さんに「中国人？モンゴル人？」と

	<p>聞かれて少し戸惑っていた。男子メンバーはトイザラスを探して歩き回っていた。</p>	
<p>5班</p>	<p>International Spy Museum の入場時間が10時15分だったため、それまで周辺を歩いてみることにした。散策していると、航空宇宙博物館や芸術産業館といった大きな建物が次々と目に入り、ワシントンらしさを早速感じることができた。このあたりから、5人の間で突然「銅像じゃんけん」という謎のルールが成立した。道端で見つけた銅像の前でじゃんけんをし、負けた1人がその銅像のポーズを真似して写真を撮るというものだ。犠牲者はなぜかほぼ2人に偏っていたが、このルールは結局1日中続いた。信号の点滅時間が妙に長かったり、車が右側通行だったり、まだ慣れないことも多く、歩くだけでも新鮮だった。</p> <p>International Spy Museumに入館するとすぐにカードを渡され、それを使ってスパイとしてのミッションを進めていく仕組みになっていた。スパイの歴史を辿る展示では、歯の中や眼球にまで物を隠そうとしていたという説明があり、その執念に驚かされた。日本では触れる機会の少ないスパイ文化を体験でき、6000円近いチケット代にも十分見合う内容だった。</p> <p>昼食は Five Guys へ。ほとんどのメンバーが「Classical Combo」を注文し、ハンバーガー・フライドポテト・ドリンクのセットに挑んだ。しかし、ポテトの「little」サイズでさえ、マクナルドのMサイズの約2倍はある量で、完食を目指して戦うことになった。なんとか食べ切ったものの、「しばらくポテトはいいかな...」という気分になった。</p> <p>National Museum of Natural History では、象の展示をはじめ、人類の進化、鉱物、海洋生物、恐竜など、多岐にわたる展示が並んでいた。日本ではあまり見ない展示方法も多く、視覚的にも内容的にも刺激の多い訪問だった。博物館の象徴とも言える象や、人類の進化、鉱物、海洋生物、恐竜など、様々な分野についての展示があった。日本では見られないような展示の方法をとっていて、とても刺激的な訪問だった。</p> <p>最後に、地下鉄は切符ではなくプリペイドカードで乗れるため、とても便利だった。ただし、駅を出発するときの加速度がかなり</p>	  

強く、油断していると体が持っていかれそうになるほどで、移動中も気が抜けなかった。



6班

International Spy Museum に入館すると、まずIDカードとコードネームが配られ、そこから自分がスパイになったつもりでミッションを進めていく流れになっていた。コンパスや地図を仕込めるペン、変装グッズなど、実際に使われていたという道具が展示されていて、映画の世界がそのまま目の前にあるようだった。英語が完璧に分からなくても十分楽しめる内容で、日本の忍者に関する展示まであったのは思わぬ驚きだった。

昼食は、Spy Museumの近くにある L'Enfant Plaza のフードコートで、それぞれ好きな店を選んで購入した。食べている途中、電気ショックPENでふざけて感電させようとしてきた少年がいて、さすがに注意する場面もあった。

National Museum of Natural History では、化石、植物、宝石など、各自が興味のある展示を自由に見て回った。特に宝石の展示は、思わず動画で撮りたくなるほどの輝きで、見ていて飽きなかった。途中で少しはぐれかける場面もあったが、それも含めて良い思い出になった。

施設から施設への徒歩移動では、アメリカならではの街並みを眺めながら歩くことができ、移動そのものが楽しかった。地下鉄では席を譲ってくれた親切なアメリカ人もいた。ただし、電車を間違えてしまうという「旅の定番ハプニング」も発生した。



		
		
<p>17:00</p>	<p>夕食は各班自由行動の予定だったが、昼食の量が多かったせいで、ほとんどの班が「もう何も入らない...」という状態になっていた。アメリカサイズの威力を改めて思い知ることになった。それでも甘いものは別腹らしく、ハーゲンダッツでアイスやスムージーを買う人がちらほら。増田先生が食べていた麺がとても美味しそうだったのが印象に残っている。ホテルへ戻る途中、後ろを歩いていたはずの増田先生が、気づけば先に到着していた。そのスピード感に、思わずさすがと感心してしまった。</p>	
<p>19:00</p>	<p>ホテル内のカフェをミーティングルームに借りて、ボストンで行う発表の練習を行った。先生方に質問を投げかけてもらい、どのような質問が想定されるのか、そして自分たちがどれだけ答えられるのかを確認した。残り時間は多くないが、より良いプレゼンになるよう、班の中で内容をさらに詰めていきたい。</p> <p>「プレゼン練習から残り約10分で、この速報を書くというバタバタした夜だった」と書いていたところ、実はまだ40分ほど余裕があると分かり、一気に安堵した。</p> <p>その後はルームメイトとの深い話で盛り上がったが、1日中ワシントンD.C.を歩き回ったこともあり、みんなかなり眠そうだった。よし、今日はもう寝よう。明日もきっと疲れる一日</p>	

になるだろうから。明日はワシントンD.C.最終日。ボストンでのプレゼン発表に向けて、しっかり準備を進めていきたい。	
---	--